

関係各位

岐阜県水産研究所長

平成28年度岐阜県水産研究所研究発表会の開催について

平素は、当研究所の試験研究の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本年度の試験研究も終盤となりました。本年度の研究成果についてご覧いただきたく、下記のとおり研究発表会を開催することといたしました。ご多用のことと存じますが、多数の方にご参加いただき、ご意見・ご助言を賜りますようご案内申し上げます。

記

1. 開催日時

日 時 : 平成29年3月2日(木) 13時00分～
場 所 : 中濃総合庁舎 5階「大会議室」 美濃市生櫛 1612-2
出席報告 : 別紙1により2月17日(金)までにFAXまたは電子メールにて
お知らせ願います。

FAX : 0586-89-6365

Eメール : c24101@pref.gifu.lg.jp

2. 内 容 別紙2 (プログラム・会場案内) のとおり

3. その他 駐車場が大変混雑することが予想されますので、出来る限り、乗り合わせでの来場にご協力ください。

所 属	岐阜県水産研究所
担 当	(本所) 松田 (支所) 原
電話番号	本 所 0586-89-6352 下呂支所 0576-52-3111
F A X	0586-89-6365
E-mail	c24101@pref.gifu.lg.jp

平成 2 8 年度 岐阜県水産研究所 研究発表会 出席申込書

No	氏 名	所属 又は 住所
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

【送付期限】 平成 2 9 年 2 月 1 7 日 (金)

【送付先】 岐阜県水産研究所

F A X : 0 5 8 6 - 8 9 - 6 3 6 5

E-mail : c24101@pref.gifu.lg.jp

<注意>

駐車場が大変混雑することが予想されますので、出来る限り、乗り合わせでの来場にご協力ください。

中濃総合庁舎大会議室(平成29年3月2日)

平成28年度 岐阜県水産研究所 研究発表会 プログラム

○開会あいさつ (13:00～13:10)

○発表課題 (13:10～15:55)

【生態環境】

13:10-13:35 水中を漂うDNAから魚を調べる
(米倉 竜次 専門研究員)

13:35-14:00 希少魚イタセンパラの生息域外保全について
(小松 史弥 研究員)

14:00-14:25 カジカ大卵型の産卵期の変異と水温の関係
(藤井 亮吏 専門研究員)

14:25-14:40 【休憩】

【漁業・養殖業】

14:40-15:05 長良川のアユの産卵場の分布と仔アユの降下量について
(武藤 義範 専門研究員)

15:05-15:30 冷水病に強い子持ちアユ生産用種苗の開発
(荻谷 哲治 専門研究員)

15:30-15:55 アユの鮮度保持技術の開発 ～特に腸(わた)抜きの効果について～
(辻 寛人 研究員)

○意見交換(質疑等) (15:55～16:15)

○開会(16:15)

※内容、発表順序等が変更される場合もございます。
あらかじめご了承ください。

平成28年度 岐阜県水産研究所研究発表会 発表（予定）課題一覧

タイトル	内 容
水中を漂うDNAから魚を調べる	<p>河川や湖沼の水中には、魚から放出されたDNAが漂っています。一般にそれらは“環境DNA”と呼ばれています。DNAが持つ遺伝情報は4種類の塩基の配列で決まりますが、それらの中には魚の種類ごとに異なる固有の塩基配列があります。調べたい魚種に固有の塩基配列のDNAのみを増やしたり、増やしたDNAの塩基配列がどの種類の魚の塩基配列と一致するのかを調べたりすることで、DNAを放出した魚の生息数や種類を推定することが可能となりつつあります。こうした環境DNAの分析を、龍谷大学との共同研究により、農業排水路における魚類群集の推定やイタセンパラ保全調査などに応用し始めています。今回の報告会では、それらの取り組み内容について説明します。</p>
希少魚イタセンパラの生息域外保全について	<p>水産研究所では、保護・増殖が必要であると指定された国内希少野生動物種であるイタセンパラの生息域外保全として、その飼育と繁殖を行っています。平成26～27年度の繁殖実験により、当所の野外池におけるイタセンパラとイシガイの適切な同時収容期間が1週間程度であることが分かりました。そこで27～28年度の試験では産卵期の6週間を1週間ごとに区切り、産卵をさせることで、9月下旬から10月上旬に産卵のピークがあること、各週で浮上数に違いがあること、産卵期後半のほうがピーク時よりも浮上数は多くなること等の知見を得たので報告します。なお、この事業は清流の国ぎふ森林・環境基金によるものです。</p>
カジカ大卵型の産卵期の変異と水温の関係	<p>河川上流域に生息するカジカ大卵型の産卵期は地域によって異なりますが、産卵実験などの結果、産卵開始は、それぞれ生息環境にあわせて繁殖に最適な時期になるように各地の個体群独自のものとして遺伝的に固定されており、その時の水温ではなく光周期などの他の要因によって決定づけられていると考えられました。近年問題となっている無秩序な放流の危険性を示す例の一つであるこの研究結果を紹介します。</p>
長良川のアユの産卵場の分布と仔アユの降下量について	<p>世界農業遺産に認定された長良川では、漁獲魚の半数以上が自然再生産したアユである。そのため、アユの産卵場の保全はアユ資源の持続的利用のために重要な行為です。そこで、長良川において効果的な産卵場保全の実現に資するため、アユ産卵場の地理的な分布について調査したので、その結果について紹介します。</p> <p>また、長良川の主要な産卵場である岐阜市鏡島地点における仔アユの降下状況について、併せて報告します。</p>
冷水病に強い子持ちアユ生産用種苗の開発	<p>アユの冷水病は、養魚場で最も被害の大きい細菌性感染症で、生産・出荷に多大な支障となっています。また、当所では、全てのアユを雌にする技術を開発しました。この技術を用いた子持ちアユ種苗は、雌雄選別の必要がないため、効率的な生産が可能ですが、冷水病に対する耐病性が低く、その克服が課題となっています。そこで、冷水病に強い子持ちアユ生産用種苗を目指して選抜育種を行い、感染実験により耐病性を評価しました。これまでの研究によって、冷水病に対する耐病性の向上が確認されましたので、その結果について報告します。</p>
アユの鮮度保持技術の開発	<p>当所では県内産アユの消費拡大の一環として、アユの鮮度保持技術の研究を行っています。「K値」という科学的指標を用いて、締め方（氷締めまたは野締め）による鮮度の違いや、貯蔵温度別の鮮度の変化を調べました。また、県内漁業者の一部で行われている「腸（わた）抜き処理」を行うことで、アユを高い鮮度に保てることもわかりました。これまでの結果に今年度の結果を交えて、報告いたします。</p>

中濃総合庁舎案内図



- 公共交通機関ご利用の場合 長良川鉄道松森駅から徒歩 20 分
岐阜バス加野団地線中濃庁舎から徒歩 1 分
- 車をご利用の場合 東海北陸自動車道美濃 I C から 1 分

< 駐車場案内図 >

